

# HDM推進会（第 20回）／ごみゼロネット推進会（第 42回）議事録

開催日： 2012年(H24年)1月 18日(水) 10:00～12:10

場所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 平林、大橋、杉本、加賀谷、川村、藤原、桐生（作成）

議題：

## 1. 「微生物処理『喰王』について」説明（桐生）

- 1/11行われた(株)ホップの責任者3名と、当会3名の会談について、標題議事録を配布、説明した。
- 「喰王」の技術的内容については、この議事録を参照願いたい。特に重要なのは、第2頁の「表微生物処理4方式の諸元対比」である。

表1. 微生物処理4方式の諸元対比

| 処理方式                  | HDM                               | 喰王                                | サンライフ                              | ネオジャグラス                             |
|-----------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|
| 微生物の種類                | EM研究所提供の12種類の菌叢                   | (株)ホップ提供の菌                        | 不明                                 | 現地の土着菌を特定環境で選別培養                    |
| 担体                    | 木材のチップ                            | 杉チップの活性炭                          | 木炭                                 | なし                                  |
| 炭の役割                  | —                                 | 反復使用する担体                          | 1回使い捨て吸湿材                          | —                                   |
| 空気の補給                 | 底部より強制給気                          | 間欠攪拌自然換気                          | 底部より強制給気                           | 吸引して真空                              |
| 生成CO <sub>2</sub> の処理 | 大気へ放出                             | 大気へ放出                             | 大気へ放出                              | 大気へ放出                               |
| 生成H <sub>2</sub> Oの処理 | 大気へ放出                             | 大気へ放出                             | 大気放出と凝集水の下水への排水を併用                 | 凝集水をタワーにより大気中へ蒸散                    |
| 1日の運転サイクル             | 1回                                | 1回                                | 連続投入                               | 2回                                  |
| 実用最終減容度               | 2%                                | 2%                                | 3～1%                               | 10%                                 |
| 反応槽容積                 | 1ト <sub>ン</sub> ⇒80m <sup>3</sup> | 1ト <sub>ン</sub> ⇒13m <sup>3</sup> | 10ト <sub>ン</sub> ⇒65m <sup>3</sup> | 不明(喰王程度)                            |
| 主要設備面積                | 1ト <sub>ン</sub> ⇒50m <sup>2</sup> | 1ト <sub>ン</sub> ⇒11m <sup>2</sup> | 10ト <sub>ン</sub> ⇒30m <sup>2</sup> | 20ト <sub>ン</sub> ⇒168m <sup>2</sup> |
| 主要設備金額                | 不明                                | 不明                                | 不明                                 | 20ト <sub>ン</sub> ⇒45百万円             |
| 1ト <sub>ン</sub> 処理費用  | 1.5～2万円                           | 不明                                | 2～3万円                              | 不明                                  |

- 「反応槽容積／主要設備面積」が例えば1日処理能力1ト<sub>ン</sub>当HDM⇒80m<sup>3</sup>／50m<sup>2</sup>、サンライフ⇒6.5m<sup>3</sup>／3m<sup>2</sup>と桁違いの数値である。設計ポリシーの違いがこの差異を生んでいるHDMを何故選ぶのかをどう説明するか、理論付けの必要がある。

## 2. 「『燃やすごみ』処理基本計画の提案」説明（桐生）

- (1) 「燃やすごみ」を「食資源」と「燃えるごみ」に分別収集する
- (2) 「食資源」は民間事業者に回収と堆肥化を委託する（9000ト<sub>ン</sub>/年）
- (3) 「燃えるごみ」は他の自治体の広域支援に依存する（5000ト<sub>ン</sub>/年）

- 分別収集はHDM実施の大前提である。小平市方式で即時実施しても成功できそうだ。
- 「食資源」を「堆肥化して地域循環型食資源の活用」の名目で全量処理事業者に引き渡し、年9000ト<sub>ン</sub>の生ごみの低減が可能になる。やる気があれば、H24年度からでも始めることができる。
- 「食資源」の処理は現地持ち込みで2.5万円/ト<sub>ン</sub>、収集込みで4万円/ト<sub>ン</sub>である。桐生が小金井市内に都市型の

HDM処理施設を建設するケースを試算したが、収集別途で2円/ト<sub>ン</sub>になった。桐生は自治体が民間業者に

対抗して自前の施設を運営することに今では疑問を持っている。ごみ処理は大局的に検討すべきではないか。

### 3. 「小金井市のごみ処理問題解決策の試案」(平林)

①現実の再確認、②具体的解決策、③PFI方式による事業委託の推進

1 / 2

### 4. 市内の小学校で行われている家庭生ごみ処理の現状の説明(杉本)

- 月曜日から金曜日まで各校の給食ごみの処理をしている乾燥処理機を、土曜日にボランティアが運転して持ち込まれる家庭の生ごみを受け入れ、乾燥減量化している。最近、市民の意識が高まり、持ち込まれる生みの量が急増している。
- 受け入れ量が乾燥処理機の能力を超えたために、対策として、①実施校数を5校まで増やす(加藤氏が各を訪問して依頼して受け入れて貰っている)、②日曜日も受け入れる検討をしている(ボランティアの負担大きい)。
- 加藤氏や杉本氏は「電気乾燥方式は電力のムダ遣い」「微生物処理にすべき」と確信している。

### 5. 討議(全員)

- 平林氏のPFI方式は実施まで5年10年とかかるテーマである。市役所側の頭の中は明日のごみ処理で一杯で、彼らとの話合いにそのような長期テーマを持ち出すべきではない。(川村)
- 各小学校に小規模処理施設を設ける提案だが、周辺住民の一人から反対が出ただけでも、建築許可がおりない。小規模でも最低限必要な設備・敷地を考えると、ムダが多い計画ではないか。(大橋)
- 現在の小学校での処理施設をHDMの実証試験機に置き換えることを提案したい。(大橋、杉本)
- ごみ処理は市長選のテーマであったし、小学校の生ごみ処理でも小金井市民の意識は非常に高まってきているから、「ごみの分別収集」を実行するには最適の時期になっているのではないか。(川村、藤原)
- 次回の行政との会談を早く設定し、「分別収集」の実行と「食資源を業者に委託する」ことを行政に提案てはどうか。(桐生)……我々の会は「HDM実証試験推進」ということで行政は話合いに応じており「資源の外注化」までやるのは目的から逸脱しているのではないか。(杉本)……確かにその通りなので、散会後に平林、杉本、桐生で話合い、平林氏から渡辺議員に相談して、ごみ特から提案して貰うことにした。

以上

次回打合せ：2月1日(水)10:00~12:00 コミュニティサロン・はけ



